

1152

一
五

25

昭和十二年三月三十日

第四戰隊參謀

在獨館附武官宛

電報（平）（有線）

足柄特第三番電

- 一、足柄二十四日一〇〇〇キール着三十日一〇〇〇發ノ豫定
- 二、キール在泊中ノ當方招待腹案左ノ通

艦上ニテ獨人並邦人ニ對シ正餐各一回（各回主人側共約二〇名）ア

海軍

ツトホーム一回（約五〇〇名）伯林ニテ主要日獨官民ニ對シ正餐一回

三、乗員數

士官四一 特務士官一二 准士官一七 下士官二三六 兵六三五

軍屬九

他ニ海軍囑託部外者六

四、經費ノ關係アルモ出來得レバ全員ノ伯林訪問實施シ度希望

五、連絡ノ爲出來得レバ士官一名ポーツマス迄派遣ヲ得度

六、詳細ハ新嘉坡ヨリ航空便ニテ通報スベキモ概ネ右ニ依リ行事案劃ノ

上大要電アリ度尙特ニ豫メ準備ヲ要スル事項アラバ知ラレサレ度

海 軍（終）

（イカキトナシ）

1155

子

K

昭和十二年四月二日午前

時

分海軍省發

發信者

第四戰隊參謀

受信者

花江部隊司令官

電報(暗、平)(無線)

四月二日午後四時〇分(無線)發信者(田)

足柄半島出港ヲ三十日(月)ノ六。〇。二發
更ス

海軍

模造半葉十三行罫紙(本田納)

海軍省副官



一二四二五

〇三〇〇 足柄 發
〇三三五 電信所受

(二四〇九) 練七醫務

醫務局長、二陸軍醫長

足柄軍醫長

機密第二二番電

其ノ一、二

足柄醫機密第一號

一、横須賀出港後三日ニシテ氣溫二五乃至二十八度ニ上昇シ比濕八十乃至九十八パーセントトナル爾後一日平均四名ノ新患者發生受療患者一日平均三十五名ヲ見タリ各患者ハ二三輕微ノ內科的疾患ヲ除キ概ネ外傷及外被病ニシテ休業ヲ要スルモノ十六名内外ナリ

二、四月十三日新嘉波出港後三十七度ノ室溫ニ於テ蟲様突起炎根治手術ヲ順調ニ終了ス、尙同日入直後一時間半ニシテ機關兵一名熱射病ヲ發シ

一時醫務局長、二陸軍醫長、足柄軍醫長、練七醫務、電信所受、足柄發、機密第二二番電、其ノ一、二、足柄醫機密第一號、横須賀出港後三日ニシテ氣溫二五乃至二十八度ニ上昇シ比濕八十乃至九十八パーセントトナル爾後一日平均四名ノ新患者發生受療患者一日平均三十五名ヲ見タリ各患者ハ二三輕微ノ內科的疾患ヲ除キ概ネ外傷及外被病ニシテ休業ヲ要スルモノ十六名内外ナリ、四月十三日新嘉波出港後三十七度ノ室溫ニ於テ蟲様突起炎根治手術ヲ順調ニ終了ス、尙同日入直後一時間半ニシテ機關兵一名熱射病ヲ發シ

三、四月十九日來機關兵一名頭部竊ヨリ敗血症及多發性筋炎ヲ併發シ、
重症ナリ

西、虎列刺豫防接種ハ第一回四月十三日第二回四月二十日ヲ以テ完了ス
之ヲ要スルニ又診患者少シク増加セルモ傳染病、流行病等ノ發生ナク衛
生狀況一般ニ良好ニシテ印度洋ノ渡航ヲ終了シ二十三日亞丁着。

二五—〇〇〇〇

海軍省副官

一二五 一 一八三〇 足柄 發
二 〇三四八 電信所受 (一一一四) 練七

四 戰隊司令官

大臣、聯合艦隊、二艦隊各長官
總長、橫、吳、佐谷鎮長官

夕 ナ 八九

足柄ヲ率キマル夕着〇八三〇時(頁一)。

一日

1158

1158

6511

~~1859~~

自記

一二五 四

〇二三五 足柄 發
〇三二六 電信所受

(二四八) 練七

四戰隊司令官

大臣、菅、吳、佐各鎮長官
總長、聯合艦隊、二艦隊各長官

タ ナ 九 七

足柄ヲ率ヒホーツマスニ向ケ馬太發一八〇〇時(頁一)。

四

日

一二五 一〇

一二〇五 足柄 發
二二四〇 有線室受

(八八三) 練七

四 戦隊司令官

大臣、聯合艦隊、二艦隊、三艦隊各長官、練習艦隊司令官
總長、各鎮長官、各要司令官、駐滿海司令官

電 報

九日サザンブトン沖ニ假泊燃料補給ノ上十日午前八時(頁一)ポーツマ
ス着。

十 日

海軍省副官

一二

五

二二

一〇三〇

足柄 發

(一九三三) 練七

二一〇七

有線室受

第四戰隊司令官

大臣、
總長、聯合艦隊、二艦隊、各鎮各長官

電

報

足柄ヲ率ヒキールニ向ケボーツマス發一〇〇〇時。(頁一)

二十一日

1911



秩父宮兩殿下 クイン、エリザベスニ御乗艦觀艦式ヲ陪觀セラレ
 ポンド大將ヨリ手厚キ接待ヲ受ケサセラレタリ。

二十 二 日

電 報

大 臣

一二五 一二二 一八一六 倫敦 發
 二三 〇三五 有線室受
 新見少將 (一九三九) 外五

海軍省印刷官

一二五

一二二 一八一六 倫敦 發
二三 〇三一〇 有線室 受

(一九三七) 外五

在英 館 附 武 官

大 臣
總 長

電 報

足柄英國ニ於ケル諸行事滞リナク終了
豫定ノ通り獨逸ニ向ケ發。

二 十 二 日

1163

~~1163~~

~~1164~~

海軍副官



一二

五 三一 〇三〇〇 足柄 受
六 九 〇五〇五 東通 受

(七八五)

外五

四戰隊司令官

次 次
長 官

機密第五二番電

本日午前八時獨艦 Sonder へ Deutschland ニ對スル報復ノ爲アルメリヤ要港
ヲ砲撃粉碎セリ尙獨國ハ増援ノ爲兵力ヲ急派中ナルガ如シ。

本電遲延原因不明

三十一日

5911

~~1965~~

海軍省

一二

六

六 二二三〇 足柄 發
八 〇三四五 東迪 受

(六八八) 練 七

四戰隊司令官

大 臣、聯合艦隊長官、二艦隊長官
總 長、各 鎮 長 官

タ

ナ 一 九

足柄ヲ率ヒポートサイドニ向ケジアラタ一發一五〇〇時(GMT)

八

日

電信寫

9911

十〇三六

供覽

軍務局

第六九號

陸軍外務大臣

昭和12

一一一六三 略

本 省

六月十三日夜着

歐

齋藤代理公使

歐二普通合第四三〇號ニ關シ（軍艦足柄航路豫定ニ關スル件）

小林司令官兼僚一行十一日午後當地着市中見物後本官主催ノ官邸ニ

於ケル歡迎晚餐會ニ出席シ十二日午前中ハ本官附添ヒ先ツ國王及攝

政府ニ出頭記帳後總理、外務、軍務各大臣ヲ歴訪セルカ右ニ對シ軍

務大臣ハ政府ヲ代表答禮セリ尙同日本官主催ノ歡迎午餐會ニハ埃及

側「ナハス」首相ヲ始メ外務、軍務ノ各大臣、次官等出席シ在亞港

黒木領事及同地日本商社代表ヲモ交ヘ歡談活動寫眞ヲモ撮影シ交歡

埃及

軍務局
12.6.17

ニ時ヲ遊シタル上同午後三時四十分發ノ衆行儀ニテ一行彼西土ニ向
ヘリ（了）

海軍省副官

一二

六

一三

一三〇〇

足柄 發

(一一五八) 練七

一四

〇三〇八

東通 受

四戰隊司令官

大臣、各鎮、二艦隊各長官

總長、聯合艦隊長官

夕

ナ

三七

足柄ヲ率ヒコロソボニ向ケポートサイド發〇五三〇時(負二)。

十三日

海軍省副官

一二六

二二一四一〇 足柄 發

二三〇三二二 東通 受

(一九二四)練七

四戰隊司令官

大 臣、聯合、二各艦隊長官

總 長、各鎮長官、練習艦隊司令官

夕 ナ 五 九

足柄ヲ率キ二十二日一三〇〇時コロンボ着(負五・五)。

二 十 二 日

海軍省副官

一 二 六

二五 一三一〇 足柄 發
二六 〇三五〇 東通 受

(二二三八) 練七

四戰隊司令官

大 臣、各鎮長官、聯合艦隊司令官
總 長、練習艦隊司令官、二艦隊長官

タ ナ 七 〇

足柄ヲ率キ香港ニ向ケコロソボ發〇八〇〇時(頁五：五)

二六一〇八〇〇

0211

~~1070~~

海軍省副官

一二六三〇

一三三〇 足柄 發

(二七〇一) 練七

二一〇三 東通 受

四 戰 隊 副 官

省副官、佐鐵副官
二艦隊副官

夕 ナ 一 〇 〇

足柄佐世保歸着後當隊司令官行動豫定左ノ通

九日一五二五時佐世保發、十日一五二五時東京着、十二日任務奏上並ニ任務

報告・總理大臣邸待出席、十三日大臣招待出席

十四日一五〇〇時東京發、十五日一四二五時佐世保着、同日退隊

十六日一五二五時佐世保發、十七日〇六五〇時大阪着

一一三〇時二艦隊長官訪問。

三 十 日

1211
1111

海軍省副官

一二七三

一三四〇 足柄 發
一五一五 東通 受

(三七五) 練七

四戰隊司令官

大臣、横領長官、馬要司令官

總長、聯合艦隊、二、三艦隊各長官

夕 ナ 二〇

足柄ヲ率キ香港着、〇九〇〇時。(頁八)

三日

1172
1172

海軍省副官

一二七五

一七二五 足柄 發
二三一五 東通 受

(五八六) 練七

四戰隊司令官

大 陸、聯合艦隊、二艦隊各長官
各鎮長官
總 長、三艦隊長官、馬要司令官

タ ナ 二 四

足柄ヲ率ヒ佐世保ニ向ケ香港發一六〇〇(頁八)時。

五

日

1173

1173

海軍省副官

一二七八
〇八三〇 足柄 發
〇八三一 東通 受
（八〇五）練 七

四戰隊司令官

大 臣、三艦隊、聯合艦隊、二艦隊、横須賀鎮佐鎮各長官
總 長、練習艦隊、各要、駐滿海各司令官、駐滿海司令官

タ ナ 四 八

足柄ヲ率キ佐世保着〇八三〇時。

八

日

5211
1174

海軍省副官

一二四

一四 二二〇〇 足柄 發
一五 〇二五三 電信所受

(一三六一) 練七

四戰隊司令官

大 臣
總 長

(練習艦隊司令官)

足柄任務報告 其ノ二ノ一

一、パシ海峽通過後靜穩ナル航海ヲ續ケ其ノ間諸研究訓練ヲ實施シツツ十一日

〇九〇〇時新嘉坡ニ入港ス只入港前日足柄艦長既報ノ事故發生ヲ見タルハ

衷心遺憾トスル處ナリ

二、在泊中日英官憲トノ訪問交換彼我官民トノ交離等恆例ニ依ル儀禮交離滞リ

ナク完了セリ

大戦後初メテ我ガ新鋭艦ヲ迎ヘタル在留邦人ノ喜悅感激ハ豫想以上ニシテ

歓迎亦熱誠ヲ極メタリ尙

(一) 總督ハ偶々旅行不在中ナリシガ海軍司令官ノ如キ午餐招待後自ラ本職副

官及ビ艦長ヲネーバルベースニ案内スル等多分ノ好意ヲ表示シ尙同泊中
ノ足柄イーグル士官室士官間ノ交感又親密ニ行ハレ（因ニ當地在泊艦船
ハ右イーグルノ外ネーバルベースニ驅逐艦ダイアナ、モニトル、テラー
外掃海艇九隻ナリ）

(一) 總領事レセプションノ如キ出席者約四〇〇名日英支各國主要官民ヲ網羅
シ當地近來ニ無キ成功セル集會ト稱セラルル盛況ヲ呈シ

(二) 當地言論機關ハ足柄ノ使命威力乗員ノ嚴正機敏ナル動作等ニ關シ連日相
當ノ紙面ヲ割キ例外ナク友好的論調ヲ以テ取扱フ等當隊ノ使命柄一般ニ
甚ダ親和的ニシテ新嘉坡寄港ハ彼我ノ理解増進友好的空氣ノ醸成ニ資ス
ル所尠カラザリシモノト認ム

尙囑託^各キ夫々右助成ニ貢獻セリ

三、隊員ノ見學上陸等行事ハ全ク順調ニ實施セラレ何等事故、發生ナシ十一、十
二日一般觀覽ヲ許可シ相當數ノ來觀者アリ

四 在留邦人ハ現下機微ナル國際情勢ヲ反映シテ尙若干必要以上ニ神經過敏ノ點
無キニ非ザルヲ一般ニ官民一致各方面堅實ナル發展ヲ致シツツアリ特ニ最近
ハ護謨ノ値上リ其ノ他ノ事情ニ依リ景氣相當好轉セルガ如シ此ノ際帝國ノ南
方ニ對スル平和協調的眞意トヲ出先内外人ニ對シ徹底セシムルコト最モ緊要
ナリト認ム

五 十三日正午在留邦人ノ歡送裡ニ出港亞丁ニ向フ

麻刺加海峽ハ夜來ノ雨尙歇マザルモ海上靜穩涼味相當ナリ隊員ノ衛生狀態ハ
新嘉坡出港後輕微ナル熱射病患者一名發生セル外良好ナリ。

十
四
日

海軍省副官

一二四二六

〇三〇〇 足柄 發
〇五〇五 電信所受

(二四八一) 練七

第四戰隊司令官

大 臣
總 長

タ ナ 六 一

足柄任務報告其ノ三

一、新嘉坡出港後マラツカ海峡ヨリセイロン島ニ至ル海上ハ雨、爾後快晴比較的靜穩ナル航海ヲ續ケテ二十三日〇九〇〇時アデン入港

英官憲及偶々伊國ヨリノ歸途寄港中ノ暹羅國軍艦 *Angthong* (舊名 *Ka-*

Ma. Chakre) ト訪問交換竝ニ交艦ヲ實施ス

因ニ從來知事格タリシアデン最高官憲ハ本年四月一日總督ニ昇格ボンベ
イ總督隷下ヲ離レアデン王領及同保護領ヲ直轄ス

二、補給見學等順調ニ終了

二十四日一六〇〇時發マルタニ向フ

出港幾何チナク伊國ヨリ回航中ノ暹羅國水雷艇三一、三二及三三號ニ會合
ス

此ノ夜望近キ 月明ノ下アフリカ及アラビヤ兩大陸ノ模糊タル山影ヲ左
右ニ望ミツツ紅海ニ入ル

三、氣溫ハ機械室發電機室烹飪室等最高五十度ニ達スルチ甲板上ハ概ネ南西
風連吹シ豫期セル程ノ苦熱ヲ感ゼズ、衛生狀態一般ニ良好ナリ

但シ新嘉坡發航以來熱射病（既報）及蟲様突起炎患者各一（以上孰レモ

全治）發生ノ外十九日敗血症患者一（二機タカガキマサル）極メテ憂慮

スベキ容體ヲ續ケ來レル處遂ニ昨二十四日二二二三時死去ス

幾ニ不慮ノ事故ニ依リ一兵ヲ失ヒ今亦此ノ事アリ洵ニ痛惜ニ堪エズ

但シ乗員ノ志氣ハ旺盛ニシテ一意任務ノ達成ヲ期シツツ在リ。

海軍省訓令

一一五

五

二一

〇九三〇

足柄 發

電信所受

(一一七) 練七

大 臣

長 官

第四戰隊司令官

夕

ナ

八 七

足柄任務報告四ノ一

一、二十五日二二〇〇時紅海ニ於テ一同ノ深キ哀悼裡ニ故中ニ退ニ水ノ水

葬ヲ行フ

二、二十八日二三〇〇時約十時間ヲ以テスエズ運河ヲ航過シ地中海ニ入ル今

ヤ炎暑三旬ニ亘ル熱地航海ヲ了ヘテ清涼新秋ノ如シ

三、スエズ、イスメリア間事務打合セノ爲大野領事代理ノ便乗ヲ許可セリ

四、紅海北上ノ途次二十七日英スループ、ウエストンニ回航禮砲ヲ交贈シ又運

河ニ於テ伊國潜水艦二隻 DELFINES KARVALIS 及ビ水上機母艦 GLOUSEP-

1180

1180

1181

~~1181~~

PEIMIRAGLIAノ南下スルニ會ス右伊艦ハマツサワ方面ニ向フモノ如シ。

—
日

一二五

七 二二一〇 足柄 發
八 一〇五七 有線室受

(六七四) 練七

四戰隊司令官

大 臣
總 長

電

足柄任務報告其ノ五 報

一、一日〇八三〇時馬太入港儀禮・交薩海軍墓地參拜(武装)補給其ノ他諸
行事順調ニ終了ス

二、同港ニハ英艦中海艦隊主力部隊在泊セシガ英海軍ハ多大ノ便宜ト好意ヲ
供與シ、ハワード名譽領事亦諸行事ノ遂行ニ關シ大ニ斡旋スル所アリタ

三、一般市民ニ對シテハ機會ヲ得テ講演・映寫等實施セリ、當地ハ大戰當時
ノ因縁モアリ一般ノ空氣相當友交的ナリト認ム

四、三日午後六時馬太發西班牙近海ニ於テハ時局柄所要ノ警戒ヲ行ヒツツ六
日晝間シブラルタル海峡ヲ航過ス

1183

1183

海峡附近ニハ英・佛・蘭等ノ艦艇監視ニ任ジツツアルヲ認ム

五 四月二十五日發病ノ足柄二水牛ノウエクニヲ胸膜炎ヨリ結核性腦膜炎併發

本七日〇三五〇時死去ス

業半ナラズ相次デ望下三名ヲ喪フ、哀悼ノ至リニ堪ヘズ。

七

日

海軍省副官

一二五九

一〇〇〇 足柄 發
二二一〇 有線室 受

(八一六) 練七

第四戰隊司令官

省副官

電報

カイト雨ノ中ヲ午前十時サザンプトン港外着給油ノ上明日早朝ボーツマ
ス入港。

九日

11811

1184

海軍省副官

一二五

一二二

一〇三〇

足柄 發

(一九六六)練七

二三

一〇一〇

有線室受

四戰隊司令官

大臣
總長

電報

後編電報

足柄任務報告其ノ六

一、本職竝ニ足柄艦長十二日ウエストミンスターアベニ於ケル戴冠式ニ参列

シ又士官十名英海軍ノ招待ニ依リ右プロセツションヲ拜觀ス

三、二十日スピットヘッドニ於ケル觀艦式ニ参列参加艦艇英海軍約一四〇隻七

三萬噸ノ外商船隊及漁船隊約一五〇隻外國艦船一七隻尙當日本職皇帝ニ

拜謁本職及艦長ハ戴冠式記念章ヲ授與セラル

三、二十日式後秩父宮兩殿下非公式御來艦御機嫌極メテ麗ハシク拜ス

四、其ノ他在泊中ノ交禮見學等諸行事ハ日英官民ノ協力好意ヲ受ケ順調ニ終

11811

1085

9811

1186

了シテ二十二日一〇時ボーツマス發キールニ向フ
御名代ノ宮御差遣ノコトハ申スモ畏シ當隊ノ觀艦式參列神風ノ訪英等ニヨ
リ戴冠式慶祝ノ目的ハ充分ニ達成セラレ日英ノ親和ニ資スル處相當大ナリ
シモノト認ム。

二十一日

海軍省副官



大 臣
總 長

一 二 六 一 一

〇二〇〇 足柄 發
〇三四七 東通 受

(九七二) 練七

第四戰隊司令官

機密第五七番電

其ノ二

足柄任務報告 其ノ八

一、ジブラルターニ於テハ英國海軍ヨリ諸種ノ便宜供與ヲ受ケ官憲トモ和
カニ交際ヲ行ヒ又幕僚ヲシテ同地陸軍病院入院中ノドイツチランド及
ハンター乗組傷者ヲ見舞ハレメタリ因ニ同地在泊艦艇ハ英アードノ外
巡洋艦三、噸運艦四(内ハンターハ入渠修理中)病院船一及米國噸運
艦一、蘭噸潜水艦一

二、六日午後三時ジブラルター出港ポートサイドニ向フ Biscay Bay 011

ヨリ Algeria 北東岸ニ至リ海面ハスペイン沿岸ノ情勢ニ鑑ミ自衛警戒ヲ嚴ニシツツ航過ス八日東地中海ニ入ル

三、途上ジブラルター港外ニ於テドイツチランド、モロッコ沿岸ニ於テ噸逐艦二隻ヲ伴ヘルライプチヒ及 Albatross 北岸ニ於テ西航中ノ元印度洋艦隊所屬 Morrocco ニ邂逅ス

四、ドイツチランドハタンヨリル方面ニ於テ麻急修理ヲ終ヘテジブラルター寄港傷者及死体收容ノ上歸國スルモノノ如シ同艦ノ損害ニ關シ會合當時外見上艦体ニ異狀ヲ認メズ人員ノ死傷ハ直接爆彈ノ被害ニ依ル外ガソリン庫ニ引火ニ依ル火傷最モ多數ナリ

ハンターハ機體ノ燃發ニ依ルモノト稱セラレ重傷者比較的多シ當時在院數下四六・ハ一九

五、スペイン問題ハ今直チニ之ガ歐洲ノ動亂ニ展開スベシトハ何人モ思料

セザルモ最近屢次ノ事件ニ依リ益々機微複雑化シ關係列強特ニ英伊及
獨蘇間ニ一層緊密ヲ加ヘ來レルハ事實ナリ

ジブラルター附近西歐ハフランコ側ニ屬シ英西ノ境界ハ防壁ヲ以テ一
般ノ交通ヲ遮斷シアルモ同方面ノ情勢ハ一般ニ靜穩ナリ。

一〇一三〇〇

一二六一八

〇二〇〇 足柄 發
〇四三六 東通 受

(一五〇七) 練七

四戰隊司令官

大 臣
總 長

タ ナ 四 六

足柄任務報告其ノ九

一、十一日〇八〇〇時ポートサイド着、補給實施ノ上十三日〇五三〇時同發

スエズ運河通過コロンボニ向フ

二、ポートサイド在泊中地方官民ト應接セル外、艦長及幕僚ノ一部ヲ同伴力

イロニ出張、埃及政府當局ト訪問交換並ニ交贈ヲ實施セリ

三、ポートサイド滞泊ハ極メテ短少時日ニ過ギザリシモ我所在外交官意並ニ

在留民ノ熱誠ナル斡旋ニヨリ國情ノ觀察及彼我ノ理解増進ニ關シ相當得

ル所アリタルモノト認ム

1611

1911

四紅海ニ出ヅルニ及ビ氣溫及濕度急昇シ、激暑ニ起因スル内外症患者稍々増加
ノ傾向アルモ重患ナク衛生狀態ハ概ネ良好ナリ、尙フクハラ囑託本日ヨリ輕
快離床セリ

五獨・伊方面視察ノ爲出張中ノ藤澤囑託ハ十一日ボートサイドニハテ復歸ス
六コロンボサノ豫定日時ヲ繰上ゲ二十二日午後ニ變更ス。

十
八
日

海軍省副官

一二二六二九

一九〇〇 足柄 發
二二五七 東通 受

(二二五九五) 練七

四 戰 隊 司 令 官

大 臣
總 長

タ ナ 九 五

足柄任務報告其ノ一〇

一、アラビヤ海ニ於テハソコトラ島附近以後風速二十米ニ近キ南西ノ季節
風強吹シ動搖相當激シク波浪頻リニ甲板ヲ洗フ狀況ナリシガ十九日六
十二度東附近ニ達スル頃ヨリ風力稍々減衰シ二十二日一三〇〇時コロ、
ンボニ入港ス

二、本航海中十九日午前 洋心 ニ於テ三機一名失墜シ今ヤ海中墜落又ハ
投身ト推定スルノ他ナキ狀況ニアルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘズ

2611

~~1192~~

三、コロンボニ於テハ我在留官民ノ熱誠ナル歡迎並ニ英官憲ノ款待ヲ受ケタル
ガ英東印度艦隊長官ハ奧地避暑地ヨリ歸來迎接ニ任ジタリ

當時在港英艦船エンタープライズ（入渠中）エメラルド及ストークノ三隻
尙總督ハ最近更迭シ前總督ハ來ル三十日離任、新總督（前香港總督）ハ九
・十月ノ交着任ノ豫定ナリト

四、二十五日〇八〇〇時コロンボ發二十九日一三一〇時新嘉坡沖ニ約三十分間
漂泊、練習艦隊ヨリ委托ノ患者六名ヲ收容ノ上航ヲ續香港ニ回フ

五、印度洋ニ出デテヨリ季節風ノ連吹ニ依リ暑熱相當緩和セラレ隊員ノ衛生狀
態好轉、一同旺盛ナル意氣ヲ以テ一草任務ノ完成並ニ次ノ任務ニ對スル準
備訓練ニ努メツツアリ。

二十 九 日

海軍省副官

一二七七

一〇三〇 足柄 發

一五四五 東通 受

(七四一) 練七

四戰隊司令官

大 臣
總 長

タ ナ 四 三

足柄任務報告其ノ一

一二日香港入港ヲ前ニシテ一水一名(アラキアサヲ)失踪遺憾ニ堪ヘズ

二三日〇九〇〇時香港着偶々四日襲來セル颱風ニヨリ一部豫定變更ヲ余儀ナ

クセラレタル外廣東駐在武官廣東ヨリ來泊セル驅逐艦早苗及我總領事館當

局ノ協力援助ヲ得テ諸行事順當ニ經過セリ今次足柄寄港ニ對シ在留邦人ハ

熱誠ナル歡迎ノ意ヲ表シタルガ英海軍及香港政府當局亦大ニ好意的態度ヲ

以テ款待シ新聞ノ論調モ極メテ友好的ナリ

三、颱風ハ中心度七四二耗四日一七三〇時頃香港ノ北東約九十浬ヲ北西ニ通過セルガ香港ニ於テハ最大風速二十二米以上ナル豪雨ヲ齎シタル外別ニ被害等ナシ

四、五日米國獨立紀念日ニハ在港米砲艦ミンダナオノ通告ニ基キ滿艦飾及禮砲施行本職及略長ハ米總領事ノ祝賀レセブシヨンニ招待セラル

五、同日一六〇〇時香港發出港當時海上若干颱風ノ余波アリシモ今ヤ東海波靜ニシテ條タル七月ノ陽光下ヲ一路佐世保ニ向ケ航行中八日〇八三〇時着ノ豫定ハ滿洲國境事件ニ關聯シ當歐香港以後所要ノ警戒實施中ナルガ香港ニ於テハ一部支那紙稍々歪曲報道シ居レル外一般ニ輿論靜穩ニシテ特ニ異狀ヲ認メズ。

七
日

A
副官

昭和十二年七月十二日

海軍省副官

至急

關係諸官殿

任務報告ノ件通知

第四戰隊司令官ノ遺歐任務報告左記ニ依リ行ハル

記

一、日時及場所 七月十二日午前八時於大田室

二、參集官範圍 次官 省首席副官 A副官

軍務局長 同一課長

人事局長 同一課長

教育局長

艦政本部長 同總務部長

航空本部長 同總務部長

軍令部次長 部首席副官

同一部長 同一、二課長

同三部長 同七、八課長

(終)